

2025 年 10 月吉日

株式会社シード・プランニング

デジタル治療の受容性と実態を調査、2024 年の国内市場は 16 億円規模に
～治療用アプリにフォーカスした、最適な利用法と普及拡大の方向性～

デジタル治療（Digital Therapeutics：DTx）
の受容性と動向を調査

～治療用アプリにフォーカスした、最適な利用法と普及拡大の方向性～



株式会社シード・プランニング（本社：東京都文京区 梅田佳夫社長、以下シード・プランニング）は、保険適用が進むデジタル治療（Digital Therapeutics：DTx）について、医師と患者の双方に今回で 3 回目となるアンケート調査を継続実施したほか、欧米の Digital Therapeutics の最新動向をとりまとめ、その結果を公開したことをお知らせいたします。

●調査の詳細はこちら

<https://www.seedplanning.co.jp/news/6063/>

◆調査の背景と目的

近年、製薬関連市場においては、医療ニーズの多様化や人工知能等の技術革新、行政の規制緩和を背景に、医療とデジタルが融合した新たな市場が形成されつつあります。日本においては、2020 年に禁煙治療補助システム、2022 年に高血圧症治療補助プログラムが保険収載されているほか、2025 年 9 月にはアルコール依存症治療補助プログラムが保険収載されるなど、実際の医療現場での利用が進みつつあります。また、2025 年には、注意欠如多動症治療補助プログラムが製造販売承認されたほか、2023 年に製造販売承認されましたが保険収載が見送られた不眠障害用プログラムの、製造販売承認事項一部変更承認申請がなされ、改めて保険収載に向け

た動きが加速するなど、ラインナップの拡充が期待されます。

グローバル市場をみると、米国では 2019 年から 2024 年までの間に少なくとも 35 以上の Digital Therapeutics が FDA 承認を取得しており、開発中の製品は 100 種類を超えるほか、欧州では先行するドイツの DiGA ディレクトリに登録されている製品が 70 件に上り、DiGA をモデルケースとした類似の枠組みが各国で整いつつあります。

第 3 の治療法とも表現される Digital Therapeutics が着実に医療現場に浸透しつつあるなか、本調査では、治療用アプリにフォーカスして第 3 回目となる医師と患者へのアンケート調査を実施しました。実際に治療用アプリを処方／利用している医師や患者の傾向等も踏まえながら、治療用アプリの認知度や処方・利用が適している疾患、メリットやデメリット、最適な利用シーン、現状の処方／利用のなかでの課題や不安、既存治療との比較を通じた期待感など、治療用アプリ等の普及拡大に向けたニーズ把握と受容性を検証するとともに、欧米の Digital Therapeutics の動向を踏まえて、当該市場を調査しました。

◆調査トピックス

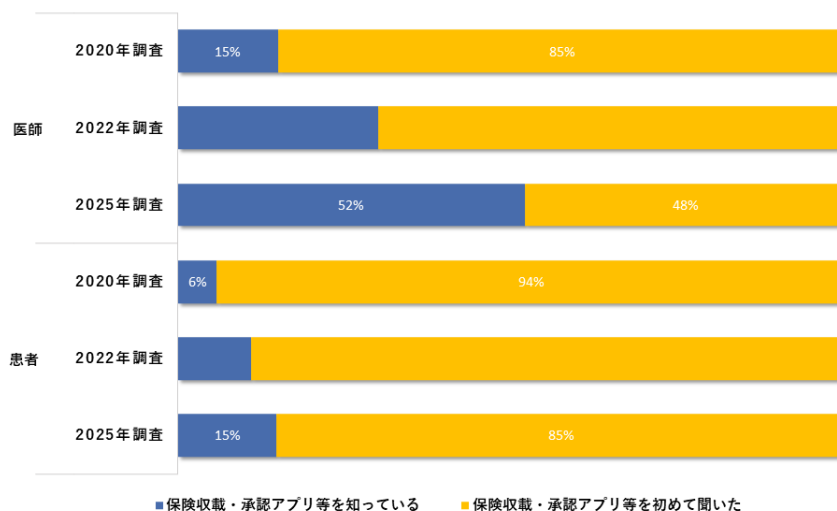
●DTx の認知度は、医師が 5 割を超えて急速に浸透しつつあるが、患者は 15%にとどまり、次のアクションとして患者の認知度向上が必須

本調査を開始した 2020 年からの推移をみると、医師は 2020 年の 15%から 2025 年に 51.9%となり 37 ポイントの大幅な増加となりましたが、患者は 2020 年の 5.8 ポイントから 2025 年に 14.8%となり、9 ポイントの増加にとどまりました。

2020 年 12 月に国内で初めて治療用アプリが保険収載され、臨床現場に登場してから 5 年弱となるなか、医師の認知度は全体の半数以上まで達しましたが、患者の認知度は上昇傾向にあるものの 1 割超にとどまり、利用に至っていない状況がうかがえます。DTx のさらなる普及拡大に向けた次のアクションとしては、患者の認知度向上のための取組みが求められる状況となりました。

デジタル治療（Digital Therapeutics : DTx）の受容性

治療用アプリ等（DTx）の認知度の推移



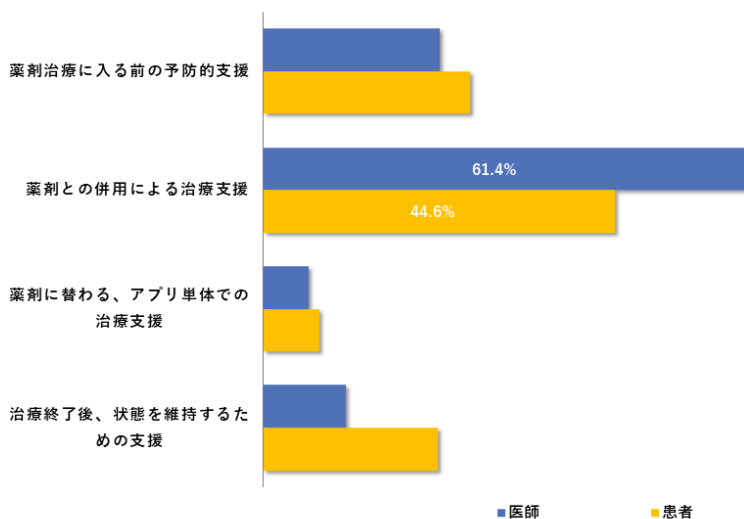
●DTx に期待される最適な利用シーンは、医師、患者ともに「薬剤との併用による治療支援」が最多となり、服薬を含めたアドヒアランス向上に期待

治療用アプリの利用シーンを、“予防”、“治療支援”、“薬剤の代替”、“治療後の支援”に分類して、もっとも適していると思われる領域を調査しました。

医師の 6 割以上、患者の 4 割以上が、治療用アプリは「薬剤との併用による治療支援」にもっとも適していると回答しており、服薬を含めたアドヒアランス向上に治療用アプリが有益であるとの期待がうかがえます。

デジタル治療（Digital Therapeutics：DTx）の受容性

治療用アプリ等の最適な利用シーン



シード・プランニング調べ

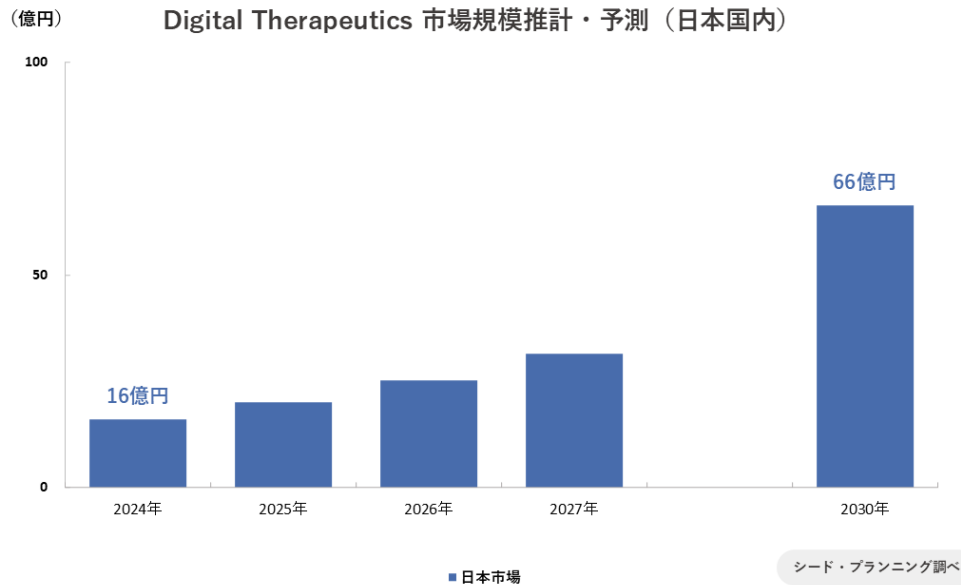
●保険適用の治療用アプリなど Digital Therapeutics 市場は、2024 年に日本国内で 16 億円規模と推計、2030 年には 66 億円規模へ成長

保険適用の治療用アプリ、および当局の医療機器承認等がない場合においても医師等が患者に勧める疾患管理等アプリを含む Digital Therapeutics 市場は、2024 年に日本国内で 16 億円規模と推計しました。

DASH for SaMD 2 やプログラム医療機器に係る優先的な審査等の施行実施など、プログラム医療機器の実用化の促進に向けた法整備が進んでおり、今後も保険適用の治療用アプリを中心に、開発品目の増加や上市品の流通が進むことが見込まれるなど市場は拡大傾向にあることから、2030 年には、日本国内で 66 億円規模に達すると予測します。

なお、今回の Digital Therapeutics 市場規模推計・予測は、対象疾患が明確なアプリやシステム等のソフトウェア製品のみを対象としているため、医療機器等のデバイスは含みません。また、対象疾患が多様な遠隔診療システムや診断支援システム等も含んでいないため、これらを含めた Digital Therapeutics 関連市場規模は、少なくとも当該推計・予測の数倍以上になる可能性があります。

デジタル治療（Digital Therapeutics : DTx）の受容性



◆調査概要

調査対象：

医師：弊社ドクターモニター登録医師 210 件

患者：外部の Web アンケート会社が保有するパネル 520 件

米国、欧州（ドイツ、フランス、ベルギー、イギリス）、日本・アジア（日本、中国、韓国）の DTx 事業者等

調査方法：

Web アンケート調査、公開情報・文献調査

調査項目：

（医師）回答医師の属性／診療状況について／治療用アプリ等(DTx)について

（患者）回答者の属性／受診状況について／治療用アプリ等(DTx)について

調査期間：

2025 年 1 月～7 月

本調査の詳細はこちら：

<https://www.seedplanning.co.jp/news/6063/>

資料についてのお問い合わせ：

広報宣伝部

E-mail : koho@seedplanning.co.jp